

## 宝塚温泉再開計画提言書

### .はじめに

自分たちの暮らす宝塚を住みやすいまちにしていこうと、私たちは市民参画の視点から活動をしている。宝塚温泉の再開に向け、限られた形ではあったが市民を対象にアンケート調査を実施して寄せられて意見をもふまえて、宝塚にふさわしい、そして市民に愛される温泉再開計画への提言をまとめた（アンケートには市民の多様な意見が寄せられている）。この提言書を十分に検討しリニューアルに生かしてほしい。尚、参考資料としてアンケート調査の結果と簡単な分析を別に添付する。

### .前事業の問題点から

日本人の多くがイメージする“温泉”からは程遠い構造 世界的建築家安藤忠雄設計をアピールするおしゃれな「都市型リラクゼーション施設」として新たな温泉プラス の魅力を創り出す。

キャパが狭く内容のわりに料金が高い ソフトの充実を図り、会員制（平日会員・ナイト会員・土日会員）やビジター設定、裸浴のみの利用など細かい区分を設けて全体として料金を安くできるようにする。

男女混合の施設内で水着姿で移動することに抵抗感がある、また移動時が寒い バスローブ（館内着）の貸し出し（有料）や階段、エレベーターの暖房をする。

水着浴が一般に受け入れられない。また、水着で入るとはいえ、女性には混浴も不評（アンケートより） 水着で入る温泉部分は従来の温泉とは異なる考え方でとらえてもらうような工夫が必要。

駐車場の不備による不満 温泉の駐車場は障害者用を残して廃止し、近くの駐車場（ソリオ宝塚など）と提携。

バリアフリーの視点の欠如 徐々にでもバリアフリー - 設計に改造していく。現代の施設としては不可欠なコンセプトであり、特に公的施設であれば言うまでもない。

市民の意見が反映されていない（アンケートより） 市民の希望がうまく取り込まれた温泉にしてゆくため運営に市民参画をいかす。長期的視野で利用者の動向を見つつ、ソフト面を核にして常に改善してゆかなければならない。利用客が増えて収益があがればハードの変更も適宜行う柔軟性が必要。市民参画によって市民の関心を高め、その結果利用も増えるという戦略をとる。

### .コンセプト

#### 1. テーマ

「美・健康・癒し」

阪急宝塚駅から南口駅に至る武庫川をはさむ一帯のまちづくりと連携した施設であること

#### 2. セールスポイント

利便性の高い都市型リラクゼーション施設

水の流れと調和する安藤忠雄の設計

宝塚のイメージにふさわしいおしゃれな癒し空間

温泉の効能（良質な泉質）

小林一三翁が開発し「風景絵もしかぬ勝地」と謳われた武庫川の四季の移ろいや夜空の美しさが堪能できる屋上ジャグジー

### 3. 当面のターゲット

当面は営業利益を上げるため、次のようにする。しかし、運営しつつ見直して、より広い層の市民の美・健康・癒しの施設になるようにする。

メインターゲット・・・40～50代女性。子育てが一段落し健康と美容が気になる年代。仕事や社会活動で忙しく時間的余裕はないが、手近に「美・健康・癒し」を満足させてくれる場があれば、自己投資は惜しまない。

サブターゲット・・・20代後半～30代女性。40～60代男性。  
仕事のストレスが高く、癒しを求めている。

### 4. 経営戦略

名称変更 ・“都市型リラクゼーション施設”としてふさわしい名称に変更すべきである。「クリスタル・スパ・リゾート宝塚」など。  
「宝塚温泉」の歴史は継承すべきであるが、施設のイメージとはかけ離れており誤解を招く恐れがあるので、施設のコンセプトを表すネーミングにすべき。（名称ではなく温泉そのものが継承されることが宝塚温泉の歴史を残すこと）

リピーターの確保のためのきめ細かい料金設定

- ・会員制とビジター併用
- ・裸浴のみの利用  
安価にし、気軽に入れる市民の温泉という側面をもたせる。  
また、六甲登山終着点であり、ハイカーたちの利用を視野に入れる。
- ・エステ、マッサージ、カルチャー教室のみの利用

ソフトの充実

- ・来館者のニーズを常に受け止められるように運営方法やプログラムを柔軟に検討・変更していくこと

広告・宣伝

- ・地域密着の媒体（FM宝塚、広報紙、タウン誌）クチコミの活用。  
悪い評判が口コミで伝わり、行く気にならなかったという人がかなり見受けられる。評判はおろそかにできない（アンケートより）

経営提携

- ・駐車場はソリオ宝塚と提携し現施設内の駐車場は障害者利用のみを残して廃止する。
- ・宝塚歌劇観劇との共通チケットや、駅や周辺の商店などとも提携する。

周辺のまちづくりとの連携

- ・宝来橋上流歩道側に足湯コーナーを設置。  
足湯は気軽に入れるので希望もかなり多い（アンケートより）

来訪者や市民の散歩途中の休憩にも利用出来る。川を眺め足湯を楽しみつつ休息できるようにすれば、温泉街及び周辺の散策もしやすい。この施設へのアプローチとしても、また、中心市街地周辺施設との連携の手段としても話題性があり目玉的要素がある。(まちづくりの視点からも、温泉街の散策を促すため、「歩くこと」を積極的に提案するべきである)。

- ・宝塚の歴史や文化をビジュアルで見せる工夫。  
謂われや宝塚との関わりを紹介する人の目を引くおしゃれなプレートなどを設置し、宝塚(地元)への興味を促す。

#### 清潔でおしゃれな館内

- ・常に清潔を保つよう気を配り、館内には地元アーティストの作品を中心にアートを配し宝塚らしい清潔でおしゃれな雰囲気演出する。

#### バリアフリー - の試み。

- ・今の施設で障害者にも安心して利用してもらうために、「障害者デー」などを設定し、ボランティアの協力を得る。(アンケートより)

#### 市民参画の視点

- ・市民が資金面でも参画出来る形態をとる(目的別市民ファンドや市民個人のサイン入りプレートやタイルを配すなど)

### .施設利用計画

#### 1.1 階フロア(オープンゾーン)

- ・障害者用駐車スペースを残して駐車場廃止により生まれたスペースを物販(JAとの提携による西谷野菜や西谷ブランド商品及び地元産物)やくつろぎ(待ち合わせなどにも利用)スペースにする。エントランスにもソファなどを置き宝塚の観光PRコーナーを設置し、パンフレット、ウォーキングマップ、グルメ・ショッピングマップなどを置く。

#### 2.2 階フロア(バーデゾーン)

- ・バーデゾーンは従来そのまま利用。  
(裸浴ゾーン)
- ・2階、3階裸浴の男女利用を反対にする(2階 男性・3階 女性)。
- ・浴槽のふちにステップをつくる。入浴時にいきなり深い浴槽に入るのは危険であり、また、浴槽内で腰掛けて半身浴ができればより健康的に長時間温泉を楽しむことができる。

#### 3.3 階フロア(「エリザベートの湯」ゾーン)

- ・設備は従来そのまま利用。  
宝塚歌劇のミュージカル「エリザベート」にちなみ、自ら身体を鍛え、フィットネスに励み美を保ったという悲劇の王妃エリザベートをテーマに「シシーの孤独を癒すバラ湯」や「シシーの美を

磨くミルク風呂」など物語をイメージさせるハーブ湯にする（週替わりあるいは日替わり）。

- ・温泉水ではなく温水でも可能

#### 4.4 階フロア（屋上ジャグジー・マッサージ・健康相談ゾーン）

- ・前リラックスルームをフットマッサージ・クイックマッサージなどのコーナー（別料金）と健康相談コーナーにし、会員個人の健康管理ができるよう血圧や体脂肪などを計測しデータ化できる機器の設置やサプリメントの情報が得られる専門の相談員を置く（販売あり）。  
屋外の床スペースに自動ウォーターサービスコーナーを設置、ベンチなども置く。
- ・ジャグジーの周りにデッキ・チェアを配置し、寝転んだり読書をしたりゆっくりくつろぐスペースをつくる。  
また、寒い時期の利用に耐えるような工夫をする。

#### 5.5 階スペース（エステゾーン）

- ・女性専用のマッサージ・フェイシャル・リフレクソロジー・ネイルケア（別料金）など。

#### 6. 地下1階スペース（エクササイズとカフェゾーン）

- ・駐車場スペースをスタジオ及びカルチャールームに変更。コンセプトにそったカルチャーを誘致する。例えば、呼吸法やストレッチを組み合わせた健康体操やヨガ、健康バレエなど。
- ・現カフェゾーンは比較的安価なセルフ方式の軽食カフェを誘致。

#### ・運営について

経営ノウハウを持つ経営陣とプロ意識を持つスタッフが必要不可欠。

運営事業体としてコミュニティビジネスを立ち上げ、そのためのスタッフを募集する。宝塚市の事業委託とする。

常に事業計画を見直すために市民を含む運営委員会を置く

営業時間は平日 11：00～23：00（入館は 22：00 まで）

休日は早朝の利用を検討。

#### ・おわりに

宝塚温泉再開について「大きな改修をしない」という条件のもとで提案をした。しかし、健全な経営を目指すには、水着浴のクアリゾートであれば、「アクアエクササイズが出来るプール」など大きな改修が望まれることを付記しておきたいと思う。また、本来この温泉施設は、宝塚の中心市街地全体のコンセプトに沿って位置づけを考えていくべきものであろう。温泉単独での集客は難しくとも中心市街地が活気づけば相乗効果が期待できる。そのためにも早急な中心市街地活性化プランの作成が望まれる。

さらに、前宝塚温泉の失敗は行政単独で計画を進め、利用者である市民の意見が充分反映されなかった結果だと考えられる。

今回の再開計画に際して市民は「自分たちのまち」の危機と捉え、知恵を絞り多くの意見を出した。市の予算が大幅カットされ、市民サービスの低下が避けられない

これからこそ納税者である市民の参画がまちづくりには欠かせない。温泉リニューアルが市民参画の例として残っていくよう心から望んでいる。  
そして、二度と同じ失敗を繰り返さないために、一定規模以上の事業の計画、運営は市民を入れた委員会で検討されるべきで、政策決定に広く市民が参画できるようなシステムの改革が必要だと思われる。

宝塚市長 渡部 完 様

## 宝塚温泉再開計画提言書

提出者 市民活動グループ・みらいネット  
代表者 糸田川 道子